



「地理学科」が広げてくれた世界

平林 亮子

「地理学科って、何を勉強するところなんですか？」

私が地理学科出身であることを話題にすると、必ずと言っていいほどこの質問が返ってきます。

地理学科に限らず、「法律」でも「経済」でも、具体的に何を勉強しているかは意外とわからないものだと思います。でも「地理」には「法律」や「経済」とは明らかに違う響きがあるらしい。どんなことを勉強するのか、勉強して何になるのか……、そんな興味がわいてくるようなのです。

確かに「地理学科ではどんな勉強をするの？」と聞かれても、答えるのはなかなか難しいですよ。ね。地図から地学から気象から民俗学に近い内容まで、学問領域があるようでない。場所や地域特性に関連付けさえすれば、何でもありの世界……だと私は理解していますから。

そして実は、それが私にとっては大きな救いとなりました。高校までたいして地理が好きだったわけでもないのに、公募推薦によって受験して適当に入学した地理学科。地名の暗記や型にはまったカリキュラムを強要されていたら、逃げ出してしまうことでしょう。

実際の地理学科は、まったく違う世界でした。何を勉強するか、どうやって勉強するか、その先どんな道に進むのか、無意味な枠がありません。もちろん、先生方から言わせれば、地理学としての絶対的な基礎や考え方はあるのでしょうけれど。

現場重視だったことも魅力的でした。フィールドワークによる現場検証(?)を欠かさず、頭の中で学問を完結させたりしないのです。結局「地

理大好き!」と言える自分にはなれませんでした。が、大切な考え方を3つ、身につけることができたと思っています。

1つ目は、既成概念にとらわれず、視野を広く自由に持つ大切さ。地理学科を出て、公認会計士となったことも、公認会計士だからといって業務の内容に枠を設けなくて自由な活動を続けられるのも、「地理」という広い視野の学問に出会ったお陰です。

2つ目は、「専門」とは知識ではなく「視点」であるということ。1つの社会現象について、何を知っているか、どんなに詳細な情報を持っているかが大切なのではない。それをどういう視点で切り取るかが、「専門性」なのだと、「自分の視点」を持てるかどうか重要なのだと知りました。

3つ目は、現場主義の大切さ。頭の中で考える大切さもありますが、五感をフル活用して現場で得る事実に勝るものはありません。フットワーク軽く、現場に赴けるかどうか重要であることを、フィールドワークの楽しさと大変さから身につけました。

いまだに「地理学科は何を勉強するところか」上手に答えられません。でも、社会で生きるために大切な3つのことを教えてくれた地理学科は、本当に大切なことを学んだ場所であり、お茶の水女子大学の地理学科出身であることを誇りに思っています。

ひらばやし・りょうこ

第46回生

公認会計士 平林公認会計士事務所所長